

平成30年度 学校評価報告書【国立市立国立第八小学校】

学校教育目標	よく考え、進んで行動する子ども 仲良く助け合い、よく働く子ども 健康でたくましい子ども	重点目標	よく考え、進んで行動する子ども
--------	---	------	-----------------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価
					中間評価	最終評価			
進んで行動する子ども よく考え、	自らの課題を見つけて出し、意欲的に追究する態度や社会の変化に主体的に対応する。	教師の学習指導力を高めることを通して、児童の学びへの意欲を高める。	問題解決的な学習過程を重視した授業を推進することで、児童の学習意欲の向上を目指す。	児童へのアンケートにおいて、「授業が楽しい」と肯定的に答える児童の割合を評価する。(4年生以上) A 90%以上 B 80%以上	楽しい A (93%) 分かりやすい A (95%) 進んで取り組む A (92%)	楽しい B (87%) 分かりやすい A (93%) 進んで取り組む A (90%)	29年度は楽しい A(90%) 分かりやすいA(96%) 進んで取り組む A(91%) となっており、昨年に比べても数ポイント下がったが、どの項目もほぼ90%と高い結果が出ており、学習意欲の高い児童が多いと言える。	90%という高い評価となっているが「楽しい」という漠然な言い方なので、内容の難易度や進め方について感じ方が変わったといえる。「楽しい」の内容を明確にし、問題解決的な学習に精選して取り入れていく。	学習への意欲や優秀さは素晴らしい。授業が楽しいかどうかはやはり内容を明確にしていく必要がある。めあてをもって進んで学習に取り組んでいるかどうかを見取っていきよう、授業改善に取り組んでいきたい。
		児童一人一人に基礎的・基本的な確かな学力を身に付けさせる。	課題別指導、習熟度別指導、補充・発展的な学習など指導形態の工夫をし、児童の基礎的・基本的な学力の向上を目指す。	ベーシックドリルを活用し、前学年までに配当されている算数の問題の正答率より評価する。(3年生以上) A 90%以上 B 80%以上	3年生 C (78.9%) 4年生 C (76.9%) 5年生 C (76.6%) 6年生 C (70.8%)	3年生 B (83.2%) 4年生 B (82.5%) 5年生 C (77.1%) 6年生 C (73%)	中学年においては、評価がCからBに上昇した。高学年は評価は変わらないが、数ポイント上がった。児童の基礎的・基本的な学力は向上していると言える。基準が高すぎるかもしれないがこのまま進めていく。(経営会議)	基礎的・基本的な学力の向上には課題別、習熟度別指導が有効であるので、本年度同様3年生以上には少人数指導に積極的に取り組んでいく。	ベーシックドリルの判定基準が高すぎると思う。また、算数だけの数値だが、他の教科はやらないのか。国語はどうなのか。Cの学年はこれまでの積上げもあると思うが、Bに上がってきている学年はこれからも継続して力を付けていってほしい。
		必要な情報を正確に取り出す力、比較・関連付けて読み取る力、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力等、資質・能力を向上させる。	主体的・対話的、深い学びの3つの視点及び「くにたち∞」を意識した指導を行い、児童の思考力・判断力・表現力を高める。	国語や算数の授業で対話的に学ぶための手立てを工夫し、児童が自分の考えたことを意欲的に表現できるようにする。(発言・ノート3年生以上) 教師設定基準を90%以上達成した児童が A 60% B 50%	3年生 C (40%) 4年生 C (23%) 5年生 B (54%) 6年生 B (55%)	3年生 C (35%) 4年生 C (43%) 5年生 C (48%) 6年生 B (59%)	あゆみの「話す、聞く」項目を基準にした。評価には大きな変化は見られないが、4年生のポイントは上昇した。今年度の校内研究のテーマであるため、対話的に学ぶことを意識する児童が増えたといえる。しかし児童自身の自己評価のハードルは上がったと言えるかもしれない。	校内研究である対話について教師側がねらいを明確にした上で、認め合う体験を通して、自信をつけ、友達と解決していく楽しさを味わわせていく。評価方法に関しては、研究の児童アンケートを活用する等検討する必要がある。	学習意欲が高い児童が多い。授業が楽しいかという項目が漠然としているのでそこを改善していきたい。対話的に学ぶ上では聞くことの充実が重要である。「友達の考えを聞くのが楽しい。」「友達に考えを聞いてもらうのが楽しい。」「友達と学ぶことが楽しい。」と思えるような校内研究、授業改善を進めていきたい。
仲良く助け合い、よく働く子ども	健全な児童生活習慣の健全育成を図る。	いじめの早期発見、組織的な対応に努める。	年4回「学校生活いじめアンケート」を実施し、聞き取りを丁寧に行う。また、全体に周知が必要とみられる件については、全職員で予防策・早期発見に努める。	学校生活いじめアンケートの結果より評価する。 A いじめをしない児童が100% B いじめをしない児童が90%以上	6月→9月 ・いじめられている人 B 14.3%→3.5% ・いじめられている人がいる B 7.8%→0.4%	11月→2月 ・いじめられている人 C 10%→11.9% ・いじめられている人がいる B 4.4%→9.3%	年間4回(6・9・11・2月)の学校生活アンケートを通して、教員が児童の様子などについて、見直す機会となった。また、学級全体にいじめはいけないことであると意識をもたせたことが、今回のアンケート結果につながったと思われる。	アンケート後、関係児童においては、一人一人面談をした。また、SSWやSCと連携することで、改善を図っている。さらに、緊急を要する際は、「いじめ防止対策委員会」を開き、学校全体で児童を見守る体制を続けていく。	いじめの数値が0ではないが、数値が出るのが良いと思う。児童がいじめに気付き、報告があることは、児童と教員とのコミュニケーションがあるということでもあり、安心した。
		特別な支援が必要な児童のニーズに応じて、学校全体で組織的に対応する。	特別支援委員会やケース会議の充実を図り、児童個々の問題解決に組織的に取り組む。	教職員と保護者で共通理解がとれているかどうかで評価する。 A 保護者との共通理解ができた75%以上 B 保護者との共通理解ができた65%以上	C 共通理解 46, 7% 新たな支援 11名	C 共通理解 55, 9% 新たな支援 16名	評価指標で見ると全体的にまだ低いが、支援についての共通理解は徐々にではあるが増えてきている。	今年度開設された特別支援教室はばたきでの実績を積み上げ、全校に周知していく。	共通理解が最新のもので57.6%に増えた。保護者から支援を要するケースが増えている。校内に通級学級が設置されたことで、身近に支援を受けることができるようになっていく。
健康でたくましい子ども	健康な心身と豊かな情操・心情を育む。	運動のポイントを意識させながら、児童一人一人の体力向上を図り、運動の楽しさを味わわせる。	体育科の学習において、運動のポイントを明確にし、達成感を味わわせる指導を展開する。	○運動に対するアンケート調査で運動が好きという肯定的に回答した児童の割合を評価する。 A 「好き」90%以上 B 「好き」80%以上	好き A (92%)	国立市のアンケート調査がこれからのため未実施	中間報告の段階で運動が好きな児童が90%以上となっている。	さらに運動の楽しさを味わわせる指導を工夫していく。	体を動かすことが好きな児童が多いことは、とても良いことだと思う。
		毎学期のパワーアップタイムの取組で、児童一人一人の体力向上を図る。	○第6学年の「シャトルラン」の記録を全国平均記録まで高める。	本校男子60.3 本校女子47.9 全国男子63.6 全国女子50.4	本校男子57.5 本校女子36.6 全国男子63.6 全国女子50.4	3学期パワーアップタイム実施前に計測したこと、季節の違いから児童のコンディションを整えることが難しく、記録があまり伸びなかった。	・計測の時期を変更する。 ・パワーアップタイムの取組を見直す。	計測の時期が影響を及ぼすのは最もである。計測時期を含め考慮されることなので、期待したい。シャトルラン以外の運動が好きなお子も多いと思うので、内容を検討してほしい。	

達成状況の指標 各項目の評価指標を参照